令和５年度　第１回山梨県考古博物館協議会議事録

1. 日　時　　令和５年１０月２６日（木）　１４：００～１６：２０

2. 場　所　　風土記の丘研修センター　講堂

3. 出席者（敬称略）

（委　員）　新津健、小林正人、白須慶子、中村京子、小林昭治、保坂康夫、三枝正人、坂本なおみ、馬場由美

（事務局）　[文化振興・文化財課]森原文化企画指導監、小坂井主任

[考古博物館] 高橋館長、柳沢副館長、野代学芸課長、柴田リーダー
三浦リーダー

4. 会議次第

（１） 開会
（２） 委員紹介
（３） 館長あいさつ
（４） 議事
（５） 閉会

5. 会議に付した事案等について

〇令和４年度　考古博物館事業実績について
〇令和５年度　考古博物館事業経過・予定について
〇考古博物館利用状況について
〇その他

6. 議事録の概要

〇令和４年度　考古博物館事業実績について
・冒頭事務局より考古博物館に関する説明があった。

（委　員）観光・地域活性化に向けた取り組みとして行った「考古博物館と周辺施設（直売所・温泉）との連携キャンペーン」の実施期間は。

（事務局）令和 4 年度は通年で実施した。年度当初に周辺施設との調整およびチラシ配布を行った上で実施した。

〇令和５年度　考古博物館事業経過・予定について
・冒頭事務局より説明があった。

（委　員）先日考古博物館を訪れた際、小学校の見学とタイミングが重なり、ゆっくり見学することができなかったので、対策を考えてほしい。

また、子どもたちに対する説明としては、子どもにも分かりやすい言葉、より子どもたちの生活に近い説明をすると効果的だと思う。

（事務局）多くの学校に利用いただいている中で、一度に複数校が重ならないよう配慮しているが、到着時間の変更等により調整が難しい部分もある。

また、子どもへの説明については、分かりやすい説明を心がけているが、各学校がどのようなスタンスで見学に来るかにもよるため、学校側の意向も踏まえて対応していきたい。

（委　員）学校において目的や要望も様々だと思う。学校が提出する利用申請書において、事前に目的を伝えることができるような工夫があると、考古博物館としても対応がしやすくなるのではないかと思う。

（事務局）申し込み段階で事前に目的や要望を伝えていただくほか、教員による下見を受け入れ打ち合わせも実施している。しかし実際に行ってみると、想定どおりにいかないところもある。

（事務局）海外では、子ども向けの博物館の整備が進んでいる。例えば、見るだけではなく触れたり体験したりできるハンズオン展示を取り入れるなど、子どもを意識した取り組みが行われている。将来の山梨の子どもたちのことを考え、本県でも検討が必要だと思う。

（委　員）高校生では、学校単位での利用というよりも興味のある生徒が個人で考古博物館を利用している印象。高校に対する PR も必要だと思う。

（委　員）郡内方面の利用者は多いか。

（事務局）来館者全員のデータはないが、学校見学についていえば、郡内方面は少ない状況。郡内方面の小中学校だと国中よりも東京方面に行く傾向があると聞いている。

（委　員）せっかくの良い展示を郡内の方々にも見てほしいと思っている。移動費用がかかることもあるが、うまい仕組みができればと思っている。

（委　員）ミュージアムショップのお土産品について更に充実をはかってはどうか。縄文のデザインをつかった手ぬぐいやエコバックなど魅力的な商品開発で誘客につながると思う。専門業者との提携や、県民からのデザイン・アイデアの公募等も一案だと思う。

（事務局）ミュージアムショップは、考古博物館協力会により運営されている。いただいた意見は協力会とも共有の上、どのような工夫ができるか、館と協力会でお互いに考えていきたい。なお、協力会では、３D プリンタにより当館収蔵品を模したカプセルトイをガチャガチャにて販売しており、お客様に好評いただいている。新たな商品開発を検討しているとも聞いており、今後も引き続き魅力的なお土産品の検討を進めていきたい。

（委　員）協力会にて、これまで手ぬぐい等を販売していたこともある。お客様に喜んでいただける商品開発を試行錯誤しているので今後もご期待いただきたい。

（委　員）考古博物館のリニューアルをお願いしたい。40 年を迎える施設であり、老朽化も進み、当時の考え方でつくられた建物でもある。また重要文化財を始め所蔵品が増えている中スペースが足りない状況もある。縄文が日本遺産に指定され、小中学校の利用も増えている中、子どものためのディスカバリールームの整備等も含めて、利用者のニーズにあったリニ

ューアルを検討してほしい。

〇考古博物館利用状況について
・冒頭事務局より考古博物館に関する説明があった。

（委　員）小中学生を中心に SDG s への関心が高い。例えば「縄文に学ぶ SDG s 」というような、SDG s を切り口にした企画を行うと興味を引くのではないか。
（事務局）当館の展示やイベントには SDG s の要素が含まれていると思うので、うまく活用・PR する方法を検討したい。

（委　員）縄文が好きというところから、さらに学びたい・もっと知りたいと思ってもらうことが重要。子どもだけでなく大人の興味を引くような取り組みを行うことも良いと思う。土偶の顔や表情の違いなど、大人が知って楽しいこと、コアなネタを掘り下げると良いのではないか。
（委　員）県外、国外の方にとって魅力的な文化財が多くあると思うので、うまく PR していただければと思う。
（委　員）古墳のキャンプなど難しいかもしれないが面白い活用を検討してほしい。
（事務局）文化財を、適切な保護をしながら利用・活用していく時代になった。奈良県では監獄をホテル利用するなど活用が行われている。本県における文化財の活用方法について検討していきたい。

〇その他
〇考古博物館土器買い戻しに係る損害賠償請求事件の和解等について
・冒頭事務局より説明があった。

・委員からの意見等はなし。

〇xR を活用した取り組みについて
・冒頭事務局より説明があった。

（委　員）VR ゴーグルは考古博物館にあるのか。
（事務局）ある。イベント時に VR ミュージアムの体験ができるようにしている。
（委　員）常設できるような体制や他館との連携も今後検討してほしい。

〇全体通じて
（委　員）お土産について、甲府駅などアクセスしやすい場所で販売し、博物館に興味をもってもらうなどの方法を検討してもよいのではないか。
（事務局）甲府駅前でのイベントで出す機会があれば積極的に取り組んでいきたいと思う。東

京では、全国ミュージアムグッズ祭りというイベントも行われている。そういったイベントの活用も検討していきたい。

以上